

# 再開第1回 (通算第30回) 文化大学のお知らせ

令和4年 7月24日 (日) 15~17時開催

## ・講師 工藤 美知尋 (くどう・みちひろ) さん

長井市出身。1966年長井高校卒。日本大学法卒、東海大学より政治学博士(学位論文『日本海軍・太平洋戦争開戦原因論』)。日本ウイルネススポーツ大学スポーツプロモーション学部教授(「文章表現」「政治学」)。日本海軍戦史戦略研究所所長。米沢有為会東京支部理事。主要著書:『日本海軍と太平洋戦争(上下)』『日ソ中立条約の研究』(以上南窓社)、『近代日本と戦争(全6巻)』(PHP)、『研究計画書の理論と実践』(晶文社)、『山本五十六の真実』『海軍大将井上成美』(以上潮書房光人社)、『海軍良識派の支柱山梨勝之進 忘れられた提督の生涯』、『苦悩する昭和天皇』『終戦の軍師高木惣吉少将伝』(以上芙蓉書房出版)、他多数。

## ・演題 よみがえる米沢海軍 — その人脈と消長

<講演要旨> 戦前帝国海軍が健在だった頃、海軍士官になるべく全国から数多くの旧制中学生が応募した。その倍率は何と20~30倍以上もあった。明治維新时期には旧薩摩と佐賀からの士官が多数を占めたが、キャリア制度が整った明治10年以降になると、米沢中学から毎年、海兵合格者が出るようになり、一躍米沢中学の名が全国に知れ渡るようになった。海兵合格者の席次は3番以内で、それ以外の者が一高などに進学したと言われていた。

上記と同じ題名の拙著は、7月に出版予定(芙蓉書房出版)であるが、今回の講演では時間の関係から、「米沢海軍」の黎明期から大正期まで興隆の歴史を話す。

- (1) なぜ海のない米沢盆地から、多くの海軍士官が生まれたのかの理由
- (2) 大正期の「米沢海軍」—「米沢海軍」栄光の一日

### 文化大学の再開

コロナ禍で休止中の文化大学をオンライン講演会方式で再開、今後は全国から聴講いただけます。なお、コロナ禍が収束後は、オンライン講演会方式と従来の集会方式とを併用して開催予定です。

## 令和4年度 文化大学の開催日程

回次	日時	講師・演題
第2回 (通算第31回)	10月2日(日) 15~17時	福崎 真知子 さん <米沢有為会米沢支部諮問委員> (一般社団法人支倉常長日西文化協会副理事長) ○支倉常長の足跡を訪ねて—生誕地米沢からの発信
第3回 (通算第32回)	12月4日(日) 15~17時	猪野 修治 さん <米沢有為会東京支部会員> (湘南科学史懇話会代表) ○湘南科学史懇話会25年の歴史 —実践的な在野学の冒険
第4回 (通算第33回)	令和5年 2月26日(日) 15~17時	菊地 隆雄 さん <米沢有為会理事> (前鶴見大学客員教授) ○「満洲」と米沢有為会—宇佐美勝夫の役割

事前の参加者登録を一括して受付中! 登録の際は「参加方法」をご覧ください

米沢有為会 #文化大学 メール宛先 [bunka-d@yonezawa-yuukai.org](mailto:bunka-d@yonezawa-yuukai.org)